



東日本大震災から学ぶ“いのち”と 減災・防災研修を実施

JR 東労組東京地本は8月9日～10日、東日本大震災で被害にあった宮城県旧野蒜駅付近、石巻市震災遺構である門脇小学校、大川小学校、また女川町など現地を見学し、震災研修を実施してきました。

震災から15年が経ち、改めて被災された現地に立ち、震災の傷跡、復興の現状など、各震災伝承館を見学し学んできました。参加者からは『震災から15年が経ち自分の中で風化している。』『その場所の地理を知る事は重要。』『無知は犯罪につながる。』『再度人のいのちの重さを実感した。』など感想が挙げられました。



石巻市震災遺構大川小学校

北上川を遡上した津波に巻き込まれ児童、教職員合わせて84名が亡くなりました。震災後の一番では主に教員の地震発生直後の行動等が問われ、注意義務違反が認められました。二番では、事前の備えとして、津波が到達する危険を予見し、危機管理マニュアルに避難方法等あらかじめ決めておくべきであると、事前防災の重要性と組織的な過失を認めた控訴審判決となりました。



旧野蒜駅を発車し約600mで停車した石巻行き3353S

切り通し区間で標高約10mの場所で地震にて停車しました。一旦は野蒜小学校に避難を開始したが、乗客である元消防団員のアドバイスで車内に留まる事を選択し、一夜を明かし津波から逃れました。



石巻市震災遺構門脇小学校

津波に流された住宅から炎症し学校全体で火災が発生しました。かねてより行われていた避難訓練通り、裏山の日和山公園に避難し、在校していた児童は全員無事でした。



女川いのちの広場（七十七銀行跡地）

七十七銀行女川支店では、上司の指示で高さ10mの銀行屋上に避難し、従業員全員が津波に流され、救出された1名を除き、12名が犠牲となりました。指定避難場所は走れば1分の高台にある堀切山で、600名以上の方が生命を守り切りました。

全組合員で東日本大震災を風化させずに減災・防災の意識を高めよう！